

## 9) アユふ化仔魚の絶食生残試験

澤田 宣雄・田中 秀具

【目的】次年度のアユ資源に貢献するふ化仔アユの活力を把握するための一指標としてふ化仔アユの絶食生残日数を調べた。

【方法】平成10年9月～10月にかけて、天然河川およびアユ産卵用人工河川に産着されたアユ卵を砂礫ごと持ち帰り、地下水（18±1℃）にてふ化させた。ふ化翌日の午前中に1ℓ容ガラスビーカー（飼育水0.8ℓ）に仔アユを50尾ずつ放養した。試験は1河川の産着卵について3～4例ずつ実施した。飼育容器の側面と底面は黒ビニール幕で覆い、仔魚が平静を保つようにした。毎日1回斃死魚を取り除き、全個体が斃死するまで試験を継続した。飼育水は毎日半分から2/3を交換し、飼育容器は地下水で恒温とした。結果は半数致死濃度（LC<sub>50</sub>）を求める手法を利用した半数致死日数で比較した。

【結果】調査した河川は、天然河川では知内川、犬上川、安曇川、塩津大川の4河川、人工河川は姉川人工河川の産卵床1区および2区である。

各河川に産着されたアユ卵から得たふ化仔魚の絶食生残試験の結果を表1に示した。半数致死日数は知内川の1例で4.5日、安曇川の1例で3.4日の計2例でやや低い数値がみられたが、それ以外では天然河川の各河川間および姉川人工河川間とで大きな違いはみられなかった。

表1. 各河川に産着されたアユ卵から得たふ化仔魚の絶食生残試験における半数致死日数

河川名	卵採集月日	半数致死日数				平均値
		No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	
知内川	9月14日	5.9	5.8	4.5	-	5.4
犬上川	10月1日	6.8	6.3	5.4	-	6.2
安曇川	10月1日	5.6	6.6	3.4	-	5.2
塩津大川	10月1日	5.6	5.3	6.6	6.4	6.0
姉川人工河川 1区	10月8日	5.7	5.5	5.3	-	5.5
姉川人工河川 2区	10月8日	5.3	5.3	5.5	-	5.4